

スマホ画像 AIで解析 舗装点検システム 相次ぎ受賞

ニチレキなどが開発した道路舗装点検システム「GLOBAL-EYEZ」（グローバルアイズ）が、国土交通省など関係8省が運営する「インフラメンテナンス大賞」の優秀賞、土木学会が主催する「インフラメンテナンス賞」のチャレンジ賞を立て続けに受賞した。ともに道路舗装の維持・管理を効率化できるベストプラクティス（最適な方法）として認められた格好だ。

グローバルアイズは自動車内からスマートフォンで撮影した路面の画像データを人工知能（AI）で解析し、くぼみやひび割れ、わだち掘れなどを高精度で検知できる。スマートシティ技術研究所（東京都文京区）や東京大学と共同開発した。

2月末に発表されたインフラメンテナンス賞のチャレンジ賞は、青森県との共同受賞。ポットホール（アスファルト舗装の表面がはがれてできる穴）の発生箇所を予測



グローバルアイズはスマホで撮影した路面の画像から舗装の損傷を検出できる

ニチレキなど開発

する新機能を用い、計画的な予防保全管理に取り組んだことが高く評価された。

2022年度には、道路構造物の点検作業を効率化・高度化できる技術として国交省がまとめる「点検支援技術性能カタログ」の舗装編と道路巡視編の双方に、車内設置カメラを使う技術で唯一掲載され採用拡大につながった。2度の受賞をテコに優れた利便性をさらに広く紹介し、実績を重ねたい意向だ。